

千葉県感染症発生動向調査情報

2022年 第32週 (8/8-8/14) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		32週	31週	30週	29週
小児科		12	18	18	18
眼科		2	5	5	5
インフルエンザ*		16	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段: 患者数
下段: 定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数

定点	感染症名	千葉県					千葉県
		注意報	8/8-8/14	8/1-8/7	7/25-7/31	7/18-7/24	8/1-8/7
			32週	31週	30週	29週	31週
小児科	RSウイルス感染症	↓↓	11 0.92	33 1.83	21 1.17	22 1.22	221 1.73
	咽頭結膜熱		2 0.17	1 0.06	0 0.00	1 0.06	7 0.05
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2 0.17	2 0.11	3 0.17	1 0.06	15 0.12
	感染性胃腸炎	↓	29 2.42	46 2.56	66 3.67	58 3.22	274 2.14
	水痘		1 0.08	1 0.06	4 0.22	0 0.00	6 0.05
	手足口病	★★↓	117 9.75	198 11.00	170 9.44	115 6.39	924 7.22
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	突発性発しん		4 0.33	8 0.44	10 0.56	9 0.50	31 0.24
	ヘルパンギーナ	○	16 1.33	15 0.83	11 0.61	8 0.44	143 1.12
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	3 0.02
インフル	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.02
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.50	0 0.00	0 0.00	1 0.20	5 0.15
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患: 7,790 例

※ 新型コロナウイルス感染症7,784例は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
	女性	40歳代	IGRA検査		女性		
	女性	70歳代	病原体の検出等	梅毒	男性	30歳代	
-	-	-	-	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代-100歳代	病原体遺伝子の検出等

・第32週は、結核3例(95)、腸管出血性大腸菌感染症2例(21)、梅毒1例(24)、新型コロナウイルス感染症7,784例(111,106)の発生届があった。

※ ()内は2022年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第32週のコメント

<RSウイルス感染症>

前週より減少し0.92となり、定点当たりの報告数が1.00を下回った。過去10年の同時期と比べると多い。2歳で最多。区別の発生状況は、緑区(3.00)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告があった。

<感染性胃腸炎>

前週より減少し2.42となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。2歳で最多。区別の発生状況は若葉区(8.00)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告があった。

<手足口病>

前週より減少し9.75となった。流行発生警報開始基準値(5.00。以下「警報レベル」という)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。2歳で最多。区別の発生状況は、若葉区(18.50)で最多。他に稲毛区(14.50)、緑区(13.00)、中央区(10.50)及び花見川区(5.50)で警報レベルを上回っており、美浜区(3.00)では流行発生警報終息基準値(2.00)を上回っている。中央区、若葉区及び緑区では2歳、花見川区、稲毛区及び美浜区では1歳で最も多く発生報告があった。

<ヘルパンギーナ>

前週より増加し1.33となり、定点当たりの報告数が1.00を上回った。過去10年の同時期と比べると少なめ。2歳で最多。区別の発生状況は、若葉区(4.50)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告があった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2022.pdf>

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2022.pdf